

**業務用 4K ディスプレイを用いた映像制作の利便性を向上
ユーザーのニーズに対応した新たなファームウェアを無償提供**

キヤノンは、業務用 4K ディスプレイ 7 製品 (DP-V1710/DP-V1711/DP-V2410/DP-V2420/DP-V2421/DP-V2411/DP-V3120) を対象に、各種機能・性能の向上を図るファームウェア^{*1}を 2020 年 6 月下旬より無償提供します。ユーザーの利便性向上に貢献することで、4K/HDR の映像制作現場を強力に支援します。



今回のファームウェアの対象となるディスプレイラインアップ
(左から、DP-V1710/DP-V1711、DP-V2410、DP-V2420/DP-V2421、DP-V2411、DP-V3120)

キヤノンの業務用 4K ディスプレイは、映像制作現場のニーズに対応するファームウェアの提供により、これまでも定期的に機能を拡充しています。2018 年 6 月から提供している HDR モニタリングアシスト機能は、業界で権威のある HPA^{*2} の 2018 エンジニアリング・エクセレンス・アワードを受賞するなど、ユーザーからも定評があります。今回のファームウェア提供により、ユーザーの利便性をさらに高め、映像制作現場を強力に支援します。

■ 映像制作業界で広く使われているファイル形式「.cube」の LUT に対応

映像制作の現場では、LUT (Look Up Table) と呼ばれる対応表を用いて色域や階調などを一括変換し、編集を行うワークフローが普及しています。今回新たに提供するファームウェアにより、映像制作業界で広く使われているファイル形式「.cube」の 3D-LUT/1D-LUT ファイルの読み込みに対応します。これにより、色味の調整を行うカラーグレーディングにおいて、ユーザーが求める映像にするための作業を効率化し、利便性を向上します。

■ RED Digital Cinema 社製デジタルシネマカメラとの連携強化

RED Digital Cinema 社製デジタルシネマカメラの映像信号を HDR (PQ) /SDR に変換する LUT 2 種類をディスプレイ本体内にプリセットします。これにより、ユーザー自身で LUT を用意する必要なく、撮影した映像を HDR や SDR で表示できるため、映像確認時の作業性が向上します。

■ HDR モニタリングアシスト機能など編集作業をサポートする機能のさらなる拡充

撮影や編集作業時に、「ITU-R BT.2020」色域の映像において、ユーザーが任意で指定したピクセルの xy 色度値と色度図^{*3}上の座標位置を確認することができます。また、入力信号の不正信号検出や接続間違いなどのエラー履歴を最大 1,000 件まで USB メモリーに書き込めるため、いつどのようなエラーが発生したかを追跡することが可能です。さらに、最大・全白輝度 2,000cd/m²を実現した「DP-V3120」(2019 年 11 月発売)では、2,000cd/m²と 1,000cd/m²など異なる輝度の映像を、ボタン一つで簡単に左右に並べて比較表示することができます。これらの機能の拡充により、高品位な 4K/HDR 映像の編集作業をより効率的に行うことに貢献します。

※1 製品本体を制御するためのソフトウェア。
※2 Hollywood Professional Association の略。
※3 色を数値化し、xy 座標空間上に表現したもの。

- 一般の方のお問い合わせ先 : キヤノンマーケティングジャパン株式会社 03-3740-3304
イメーシングソリューション営業部
- ディスプレイホームページ : canon.jp/v-display

<無償提供ファームウェアの主な特長>

1. 映像制作業界で広く使われているファイル形式「.cube」のLUTに対応

- ・映像制作業界で広く使われているファイル形式「.cube」の3D-LUT/1D-LUTファイルの読み込みに対応。色味の調整を行うカラーグレーディングにおいて、ユーザーが求める映像にするための作業を効率化し、利便性を向上。

2. RED Digital Cinema 社製デジタルシネマカメラとの連携強化

- ・RED Digital Cinema 社製カメラの映像信号をHDR (PQ) /SDR に変換するLUT 2種類をディスプレイ本体内にプリセット。ユーザーが自身でLUTを用意することなく、撮影した映像をHDRやSDRで表示できるため、映像確認時の作業性が向上。
- ・RED Digital Cinema 社製カメラのプリセットLUT以外は、USBメモリーを用いてディスプレイ本体に取り込み可能。

3. HDR モニタリングアシスト機能など編集作業をサポートする機能のさらなる拡充

- ・撮影や編集作業時に、「ITU-R BT.2020」色域の映像において、ユーザーがカーソルで指定したピクセルのxy色度値と色度図上の座標位置を確認することが可能。
- ・入力信号の不正信号検出や接続間違いなどのエラー履歴を最大1,000件までUSBメモリーに書き込めるため、いつどのようなエラーが発生したかを追跡することが可能。
- ・最大・全白輝度2,000cd/m²を実現した「DP-V3120」では、2,000cd/m²と1,000cd/m²など異なる輝度の映像を、ボタン一つで簡単に左右に並べて比較表示することが可能。
- ・ユーザーが任意で設定した輝度レンジ以上の領域を赤色で表示することに加え、レンジ範囲内の高輝度部分を着色して表示することが可能。これにより、レンジを超える部分のない映像でも、一番輝度の高い部分の位置を把握することが可能。
- ・従来は1カ所しか表示できなかったエリアマーカが、同時に2カ所表示可能。
- ・セーフティーゾーン/グリッドマーカの表示位置や領域・サイズの変更範囲が拡大。
- ・これらの機能の拡充により、高品位な4K/HDR映像の編集作業をより効率的に行うことに貢献。



色度図表示のイメージ図